

月報

40号

発行所

青丘文庫

編集・発行★韓 哲 暉

〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1

メゾンド青丘ビル2階

TEL (078) 734-5989

迎春

旧年中は色々とお厚情を頂きましてありがとうございました。金慶浩氏の急逝という打撃もありましたが、蔵書は大幅に増加し、閲覧者も少し増えて参りました。研究会も継続して毎月開かれており、「朝鮮民族運動史研究会」は七九回、「在日朝鮮人史研究会」は一〇四回を数えるに至りました。

「朝鮮民族運動史研究」5は、少し遅れましたが「飯沼二郎先生古稀論文集」として、八篇の力作を掲載する大冊として、年末付けの刊行となります。

最近の主だった傾向は、情報社会化の波が文庫にも及び、朝鮮関係万般の問題について図書館、大学、研究者からの質問が増えてきたことです。多様極まる問い合せで、今のところ不十分な回答しかできていませんが今後多くの機関や人との提携によって情報提供網をつくり適確ですばやい対応によるサービス活動も文庫の今後の役割の大きな分野ではないかとおもわれます。またあまり宣伝をしなかった文庫ですがこの面でも今少し力を入れねばと思っています。ところで、本年いつの間にか青丘文庫は二〇周年を迎えるに至りました。様々なことがあり、反省も多々ありますが志を新たにし一層の発展を期して二一年目へと出発致します。何卒旧に倍するご助力を願ってやみません。

御健康と御研究の進展を心よりお祈り申し上げます。
一九八九年 元旦

青丘文庫 館長

韓 哲 暉

(一九八八年一月二〇日)

朝鮮農民総同盟について

報告者 飛田 雄一

朝鮮農民総同盟は、一九二四年に結成された朝鮮労働農民同盟が、一九二七年に分立してできたものである。朝鮮農民総同盟は朝鮮の農民運動において重要な位置を占める団体であると考えられるが、官憲の記述も、南北朝鮮および日本における運動史研究側の記述も、似たりよったりの簡単な記述にとどまっている。例えば、文国柱編『朝鮮社会運動史事典』には次のように記されている。

朝鮮農民総同盟

朝鮮の農民運動は、朝鮮の民族解放運動の基幹であるべきであったにもかかわらず、農民階級独自の全国的な組織はなかった。しかし、一九二〇年代にはいつて朝鮮労働共済会が、労働者農民運動の全国的団体として結成され、一九二四年に結成された朝鮮労働農民総同盟もまた労働運動と農民運動を組織指導するようになった。その後、労働運動と農民運動とを分立する必要性が切実に要請され、一九二六年十一月十九日、朝鮮労働農民同盟を朝鮮労働農民同盟と朝鮮農民総同盟とに分立することに決定した。しかし、当時は日本帝国主義の強圧的な禁会禁止のために結成大会を開くことはできなかった。それで、一九二七年九月七日になって書面で各農民団体の了解を求めることで大会にかえる方法で、朝鮮農民総同盟を組織し、部署と委員を選定したという奇妙な手続のなかで呱呱の声をあげたのである。したがって、積極的な表面活動が不可能なまま存続してきたが、一九三一年五月十

五日、新幹会の解消と前後して、事実上、自然消滅の道をたどるようになった。しかし、そのかわりに、咸鏡南・北道(ハムギョンナム・プクト)を中心にした多くの赤色農民組合事件が示すように、朝鮮の農民運動は全面的に非合法活動の赤色農民組合が代表するようになった。

報告者は『東亜日報』および『朝鮮日報』の記事により朝鮮農民総同盟活動について整理した後、まとめないし課題として次のような点を指摘し、参加者で討論を行った。

①総督府の弾圧により合法的な集会さえも開けなかった状況下で、全国の農民運動の指導機関としての役割を果たすことができなかったということは事実のようである。

②赤色農民組の幹部のなかに例えば韓炳洛、裴鍾哲のように農民総の幹部としても名前のあがっている人もおり赤色農民組がほぼ農民総の傘下にあったとかがえられるが全国的な指導力は①のようになかったであろう。

③綱領、参加団体等について不明なところが多い。

④文国柱編『朝鮮社会運動史事典』のとおり農民総が一九三一年の新幹会の解消と前後して事実上、自然消滅の道をたどるようになったとすると、咸鏡道を中心とした赤色農民組運動が一九三〇年代前半をピークとするものなので、農民総の指導力がなくなったのを一つの契機として赤色農民組の活発化があったと言えるかもしれない。

⑤労総、農総、青総(朝鮮青年総同盟)の「三総集会禁止」の状況下でのこの時期の運動を、青年運動の農組青年部への解消は一般的なことか、新幹会を中心とした幹部の「金太郎あめ」的状況などはなかったのか、なども考慮にいれトータルにとらえる必要がある。

在日朝鮮人學務研究会の105回例会

(一九三三年十一月十三日)

「芦屋学寮の顛末」

濱政博司

関東大震災の朝鮮人留学生の惨状を見た渋谷義二郎氏と石山敏夫は、東京在住留学生の支援を決意し、学生幹旋を朝鮮總督府東京出張所に依頼した。震災直後のことである。種々の事情により、東京在住者ではなく、朝鮮全道より選抜する方法により、大正十三年四月芦屋学寮がスタートした。朝鮮より芦屋へ到着するや翌日入試を受ける忙しい日程であったが、両氏が県学務局と折衝の上、努力した結果であった。渋谷氏は会寧で貿易商を営んだ利益を朝鮮へ還元する方法の一つとして資金供与され、石山氏は三菱退職後に自家に別棟を建築し、居住を共にして指導された。両氏の社会事業への熱意によって始まったのである。

学寮は発足から順調な経過をたどった。留学生達は成績優秀であり、県商生は優秀により級長となり名古屋高

商から東北大学。県工生は広島高等工業から三菱電機に入社。神戸一中生は一高へと進学。卒業後帰国して企業・金融組合に勤めた者四名。来日以来結核により休学を繰返していた一学生は本国に帰って死亡。中途退学者二名。芦屋学寮は石山氏の死去により昭和四年終了したが渋谷氏は他にも奨学資金を供与され、学業を終えた者が十名近くいた。学寮費用約三万円のこの事業は詳細な日記が現存し、当事者の辛苦をうかがわせる。

この事業は二人の個人的善意から出発しており、思想的な背景はない。むしろその事が特筆に値する特徴と思われるが、しかし、日帝下の日韓関係史の中でどう位置付けられるか難しい。側面の支持者として大坂金太郎氏、柳原古兵衛氏の名が見えるのも参考となる。私は他人の為に金を提供する事自体ですでに、この事業は高く位置づけられるし、希少な事業であったと思う。日本での資料は大体搜し終えたので、韓国での住所が判明する二人に連絡をとり、当事者としてどう考えておられるか、資料を見ていただいた上で判断を待つ予定。

☆新図書案内

韓国独立運動史 義兵篇	国史編纂委員会	京畿 同社	87年12月P709
韓国史料 書第19号致見日記八	"	" " "	" " P516
韓民族独立運動史資料集 3・4	"	" " "	" " P651
朝鮮王朝實録分類集 軍事編1	"	" " "	" " P525
駐韓日本公使館記録2	"	" " "	" " P574
韓国史論17	"	" " "	" 7月P473
もう一つの現代史	川瀬俊治	大阪ブレンセンター	P351
濟州島四・三蜂起	ジョン・メリル	東京 新幹社	88年 3月P164
物語 朝鮮の歴史	訳山田昌治	" 三一書房"	6月P268
KIMILSUNG WORKS 1-5	金 日成	平壤	80年
中国語朝鮮語雑誌新聞目録	国立国会図書館	東京	
一関釜連絡船—海峡を渡った朝鮮人—金 贊汀	"	朝日新聞社	88年 5月P209
韓国再発見	アサヒグラフ	" " "	3月P238
韓国の食	石毛直道	" 平凡社	" 5月P357

研究会ご案内

★朝鮮民族運動史研究会・第80回例会

日 時 1989年1月15日(日)午後2時

テーマ

報告者

原田 環氏

日程が変更的の時
に注意下さい

★在日朝鮮人運動史研究会・第107回例会

日 時 1989年1月22日(日)午後2時

テーマ 「西成高校での実践をふりかえって」

報告者

金森 義作氏

※ あわせて『在日朝鮮人史研究』18号の書評会を行ないます。
担当は、樋口、松田論文(飛田氏)、外村、鮎沢論文(堀内氏)、梁、
金論文(金森氏)です。

※ 会場はいずれも青丘文庫

■ 2月19日(日)午後4時より、青丘文庫20周年および韓哲曦氏の
『日本の朝鮮支配と宗教政策』の出版記念会を神戸YMCAで開きます。
改めて案内を送りますが、スケジュールをあけておいてください。